

2012.2.22

ご支援をいただいたみなさま

お父さんたちのネットワーク世話人
石垣政裕

被災地支援のご報告No.19

—ストーム・ウェザー・シャンティ・クワイア公演—

10日間ぐらいたってから電話をしたが、まだ公演先が決まっていない。

震災に関連したあるシンポジウムの打ち合わせの席で、どこかで公演できないだろうかと相談を受けた。ノルウェーの「舟歌」を歌うグループが日本公演ツアーを行うに当たって宮城県で最初に演奏したい、「祈り」のコンサートを開きたいということだ。グループは公演でもどこでも歌えるということだったが、お父さんたちのネットワークでは、この“祈り”のコンサートを通して、子どもたちに、場所は違っても、一つにつながった海で暮らす人びとの舟歌を楽しんでもらい、子どもたちにも海に生きてきた親たちのへの尊敬と、そして郷土に暮らすことへの誇りを持って海を見つめて欲しい、そしてすばらしさを感じ取っていただけたらと思い、「稲井オヤジの会」の千葉政徳さんに相談しました。



おやじプリンの味はどうですか？

千葉さんの働きにより、渡波中学校と稲井中学校に応じていただきました。震災後、それだけでなく授業日数のやりくりで忙しい時間を1時間このコンサートに当てていただくことになりました。

渡波中学校は稲井小学校の敷地内に立てられたプレハブの校舎で開校されている。

ほぼ同じ敷地内に小学校と中学校4校が同居している状態です。朝夕のバスで登下校する渡波地区は石巻でも甚大な被害を被ったところで、被災した家庭も仮設住宅、学校も仮設と生徒たちの教育環境はすぐには戻らない。廊下ですれ違う屈託のない表情に、一刻も早い教育環境の整備を願うだけです。



生徒たちは大熱狂

当日の音響などは石垣の人脈から小田島さんをお願いしました。小田島智さんもどれだけできるかと心配しながらも快く引き受けて下さいました。司会には仙台小劇場の高森順子さん、通訳には東北大学経済学部の学生吉田美里さんが引き受けて下さいました。

当日は、仙台駅に着いた後、スムーズに仙台まで案内するため、鹿島台おやじの会の照井貴広さんが一行のワゴン車を先導してもらいました。コンサートの前に途中被災地域を見て、大変なことを実感したと話しておられました。

約1時間のコンサートは、幅の広い曲想と聴衆を巻き込んだ演奏で、生徒たちも楽しんでいました。途中、「どうぞ前に出てきて下さい」とステージ上からアナウンスされると、「えっ、学校のコンサートなのにいいの?」という戸惑いを見せながらも、メンバーと握手をし、一緒に歌ったりしておりました。コンサートの模様は寺岡おやじの会の善波昭宏さんがYouTubeにアップしてくれました。感動的な様子を伝えてくれます。

http://www.youtube.com/watch?v=ogJdqko7HRE&feature=youtube_gdata_player

本コンサートは、テロで多くの国民の命を失ったノルウェー王国の「祈り」とも共通する犠牲者への鎮魂とも位置づけられ、ノルウェー王国大使館から公使参事官 トール・ダール ストロム様および広報担当官 伊達朱実様にわざわざ会場にお越しいただきました。深く感謝いたします。



演奏できてとても良かった

私たちは バイキングやフィヨルドなど、海と共に暮らしてきたノルウェー王国のグループの奏でる”舟歌”を、おなじ港町石巻の人々に届けることができたとうれしく思っております。